

里だより

No.378

令和5年7月1日

—発行—

菊池郡大津町平川400番地

社会福祉法人 清和会

つくしの里

TEL 096-293-1550

FAX 096-293-1579



④班のみんなで BBQ&温泉外出 (*^-^*) !



カンパ〜!!



七月号もくじ



施設長より……………1

(ページ)

サビ管より……………2

主任より……………3

職員より・調理場より・

サービス向上委員会より……………4

行事報告・行事予定……………5

ありがとうございました・

編集後記……………6

決算報告(計算書類)……………7



つくしの里 ホームページ

<http://www.tsukushinosato.or.jp>



施設長より

医療連携



雨後の蒸し暑さに、今年の梅雨は「大雨と猛暑が隣り合わせのメリハリ型」と、テレビの気象予報士が言っていたことを思い出して、これから来る夏の猛暑を想像すると気が滅入ります。

さて、四月末に開催した施設・後見人・家族情報交換会では、これまでコロナ禍でお伝えできていなかった施設の状況について説明いたしました。ご出席いただいたご家族の皆様には、ご多忙の中、誠にありがとうございました。

利用者さんの支援をさせていただくうえでは、知識や技術の習得が必要です。知識や技術といっても様々で、利用者さん個人個人において、障がい特性はもとより性格や特徴も違います。生活と照らし合わせると、起床から更衣、食事支援、整容、排泄、日中活動、余暇時間、入浴、就寝、夜間の支援等があります。これを一週間、一か月、一年と積み重ねていくわけですが、その他、通院や外出なども入ってきます。

障がい特性に応じた接し方や支援方法は、身に付けようとすることができませんが、人ひとりのことを全て把握するのは難しく、毎日同じでもなく、日々の状態に合わせる必要があります。ここまでは支援者の力量が発揮できるところですが、疾病的な面ではどうしても医療機関の力を要します。ただ、医療機関に丸投げして任せるのではなく、日ごろの状態を記録し、携わった職員が客観的に医師へ伝えなければなりません。その情報は、薬が処方される場合に適切な判断材料になるからです。処方されれば、服薬

後の様子を見て支援や次の通院に生かすことになります。

これまでは、風邪やケガ、持病の受診が主でしたが、ここ数年、骨粗しょう症、誤嚥性肺炎など高齢者に多い疾病も増えてきました。それだけ高齢化が進んで、障がいをお持ちの方の退行が早いということだと思えます。年齢的には六十代だけでも、身体的・体力的には七十代・八十代と考えられるケースや認知症が疑われるケースもあります。

施設・後見人・家族情報交換会でお示ししたデータでは、生活介護・施設入所支援で三十九%が六十歳以上でしたが、先述した状況を加味すると、次に控える五十代の方々も近々、同様の状況になることを想定しておかなければなりません。日ごろからの介護予防対策といったところででしょうか。能動的に行う介護予防と受動的なものでは効果にも差が出ると思われます。利用者さんに行ってもらうのは、どうしても後者が強くなります。

現在、ST（言語聴覚士）やPT（理学療法士）に來園してもらい、私たちでは補えない医療の専門分野をサポートしていただいています。施設でできる場所は、支援現場で生かしたいと思っていますが、高齢化に伴う医療連携には、命に直結するケースが増えてきます。医療行為が必要になった場合は、私たちの力ではどうにもできません。今後は、今まで以上にご本人さんの状況を施設と家族で十分共有しておく必要がありますので、ご相談等も増えると思います。ご理解の程よろしくお願いいたします。

施設長 松永一博

サビ管より

時間パズル



今年、平年より六日早い、五月二十九日に九州北部が梅雨入りしました。線状降水帯が発生しやすくなるような話も聞きます。日本各地で起きている地震も気になるところですが、梅雨の豪雨による土砂災害が起きなければいいと思います。

梅雨時期の六月は億劫な気持ちになる方もいらつしやるかと思いますが、そういう時こそ時間を大切に使用したいと思います。

六月十日は「時の記念日」でした。「時の記念日」を簡単に解釈すると「時間を大事にしよう」です。時間の発祥は古く、飛鳥時代に天智天皇が漏刻（水時計）を用いて、日本で初めて時を知らせたことが由来になっているそうです。昔の人の偉大さを感じます。

時間と言うのは、私たちに一番身近なもので、なくてはならないものです。全ての人が生まれてから死ぬまで時間と共に過ごし、成長し、寄り添って生きています。当たり前ものになりすぎて「空気」のような存在なのかもしれません。敢えて意識せずにごしている方も多いのではないのでしょうか。私もその一人でした。時間は早まったり遅くなったりはしません。一秒一秒が同じリズムで刻まれます。だからこそ時間を大切に使用したいものです。

私たちは「時間がない」「暇だ」という言葉を日常的に使い、よく耳にします。「時間がない」と思えば、何もかもが後回しになってしまい、結果、自分にふりかかってくる。

「時間がない」ではなく「時間は作るもの」だと発想を変えてみました。時間に追われる毎日を過ごすより、自分がすべきことに優先順位をつけ、そのためにどう時間を配分していくか。時には思うように事が運ばないかもしれませんが。予想外のアクシデントが起きることも日常茶飯事です。出来なかつたことをいつするか、振り替えた期日に他にするのではないか、そもそも用事を追加できるかを考えます。まるでパズルです。詰め込み過ぎると窮屈になるため、何もしない時間も作っておきます。「暇だ」と思えば、少しの時間で出来そうなことを考え実行します。簡単な整理整頓や、予定していたすべきことをちよつと前倒ししてみます。そうすると、意外と時間に追われるより追っていることに気づきます。知らない間に出来る自由な隙間時間をうれしくも思います。常々時間を意識して確認することで、進捗状況を知ることができ、余裕を持った対応が可能になります。言わば時間パズルの繰り返しです。

時間は常に私たちの一番近くで時を刻んでいます。だからこそ大切にしたいですね。



支援係長 竹下 幸樹

主任より

数年ぶりの・・・



今年五月八日から新型コロナウイルス感染症の位置づけが、2類相当から5類感染症へ移行しました。

○ 政府として一律に日常生活における基本的感染対策を求める事はない。

○ 感染症法に基づく、新型コロナウイルス陽性者及び濃厚接触者の外出自粛は求められなくなる。

○ 限られた医療機関でのみ受診可能であったのが、幅広い医療機関において受診可能になる。

○ 医療費等については、健康保険が適用され1割から3割は自己負担が基本になるが、一定期間は公費支援を継続する。

以上の内容が変更のポイントとして挙げられます。法律に基づき行政が様々な要請・関与をしていく仕組みから、個人の選択を尊重し自主的な取り組みをベースとした対応に変わりました。移行から約二ヶ月が経とうとしています。日常生活においても、マスクの着用や徹底した検温や消毒等、この数年間当たり前のように行っていた事も緩和されています。

スーパー等に見かけ物に行った際、マスクを着用していないお客さんを見かけるようになってきました。また先日コーヒードに行った際には、店員全員がマスクを着用せずに接客をしていました。移行に伴う変化を実感すると共に、コロナ前はこれが普通だったのかなと考えると違和感すら覚えます。コロナ禍の長さがそう感じさせるのかもしれない。

私事です。五月に数年ぶりに野球をしました。中学・高校と野球部に所属し、大学ではサークル、卒業後はつくしの里でソフトボールもしています。今はつくしの里の職員や同業者、福祉関係の職員で作った野球チームに所属しています。数年前に参加者を募りユニフォームを作ったチームで、大会にも年に数回ではありますが出場していました。しかし、コロナの蔓延と共に活動を続ける事が難しくなり、この数年間は活動出来ませんでした。利用者さんの命を預かる仕事をしている以上、施設間の交流や接触等、感染リスクは少しでも減らす必要がありました。活動出来ない期間が続きましたが、多くの部員が福祉関係者。人が集まる事の難しさや感染のリスク等、各々が理解していたと思います。

感染者の減少や5類への移行もあり「今年こそは！」という思いで大会に出場しました。不規則勤務をしている人が多いので、試合はいつも人数ギリギリ。怪我をするわけにもいかないので、数年間活動していなかった事もあり、身体は思う様には動かず…。試合結果はご想像にお任せします…。笑

ただ、スポーツを行える楽しさや久しぶりに集まり一つの事を共有し楽しめる時間。心身共にとても充実したものとなりました。

私達の生活においては、緩和に伴う日常生活の変化を実感する事が多くなってきました。感染症に気を付ける事はもちろんですが、利用者さんの生活においても、コロナ禍以前に少しでも戻っていけるようお手伝いしていきたいと思っています。

主任支援員 小嶋 健仁

職員より



私事ですが、今年度いきいきグループから4班に異動いたしました。夜勤等の起床・就寝の支援で、きらめきグループの利用者さんについてもある程度知った気でしたが、日中の支援に入ると、まだまだ知らないことだらけだったと思い知らされます。

今までとは大きく異なる業務と利用者さんの支援に右往左往する日々ですが、利用者さんとコミュニケーションを取りながら関わることに楽しさも感じています。どうしたらもっと伝わるだろうか、どうしたらもっと気持ちを汲み取れるだろうかと試行錯誤中です。

先日は、入職して初めて班全員が参加する外出を経験しました。いつもと違う環境で利用者さんと共に行うイベントは、目まぐるしく大変ながらも、皆さんの楽しそうな顔、美味しそうな顔、満足気な顔、色んな顔が見られて楽しくもありました。これからこの班でもっとたくさん皆さんとコミュニケーションを取って色んな一面を知っていきたいです。

(支援員 池崎)

調理場より



料理は五感で楽しむものと言われます。味や香りもですが見た目も重要です。料理には「赤・黄・緑・白・黒」の5色が入っているときれいに見えます。黄色と赤色は食欲増進効果があるようです。思い浮かぶのが黄色は卵、かぼちゃ、とうもろこし、パプリカ、レモン、赤色はトマト、いちご、すいか、マグロ、鮭、牛肉、カニ。暑さで食欲が落ちないように見た目も気を付けます。

余談ですが、熊日朝刊に「きょうは何色」のコーナーがあります。「和の色」は2000種以上あるそうです。私の好みの色は「一斤染(いっこんぞめ)」口紅もこの色に近いものを選びます。また、6月に見たつくしの里の紫陽花のブルーのグラデーションもとっても素敵でした。日常感じる彩りを日々の食事にも取り入れていきたいと思います。

(管理栄養士 奈須)

サービス向上委員会より



■ 健康【看護師 松村・主任支援員 長瀬・支援員 北島】

利用者さんの健康を第一に考えての支援を行う事を目標に、本年度の健康委員会では①感染症予防、②リハビリ指導、③健診・フォローの3つに重点を置いています。

感染症予防では定期的な備蓄品の確認、発症時の速やかな対応を掲げて“いざ”という時こそ、すぐ動けるように体制を整えています。

またリハビリ指導では、月1回理学療法士の先生に各班を回っていただき、利用者さん一人ひとりの課題に応じた解決策を一緒に考えていただき、班職員と一緒に取り組んでいます。

健診・フォローについては、健康診断・歯科検診を始めとした定期検診の実施、検査後の通院や往診での治療を行い、健康増進と予防に努めていきたいと思っております。

利用者さんが“健康”に過ごせるよう頑張っていきます。

行事報告

※ 5/21 (日) ~6/20 (火) について報告します。



★ 生活介護④班外出【5月24日(水) 家族湯 はなみずき】

バーベキューでは4班で収穫した玉ねぎを食べる事が出来てとても良かったです。収穫しても、なかなか口にする事が出来ないのが良い体験になりました。

刻み食の利用者さんには、肉とは別にハンバーグも準備しました。とても人気で、何度もお替りをする姿をうれしく思いました。食後の温泉では、利用者さんから「気持ちよかったよ」「すごかったね」等の話を聞くことができました。

外出担当として、当初は「食事形態がある利用者さんも多く、食事外出は難しいのでは?」「温泉と食事を一緒に楽しめる場所はないのでは?」とも考えていましたが、他の職員からいろいろとアイデアをもらい、良い方向へ進める事が出来ました。今後も利用者さんが楽しめる外出を計画していきます。(支援員 木戸)



行事予定

☆ バイキング昼食会 (つくしの里)

期 日：7月4日(火)

内 容：給食会議でのリクエストが多かったラーメンを中心に、おにぎり・牛肉の煮込み、唐揚げなど、皆さんが食べたいメニューのバイキングです。もちろん、デザートもたくさん準備します♪



☆ いきいきグループ外出 (アンジュールハウス)

期 日：7月20日(木)

内 容：4つグループに分かれて外出する予定です。今回のグループは、いつも美味しいアンジュールハウスへ食事に行きます。



☆ グループホーム一泊旅行

期 日：7月27日(木) ~28日(金)

内 容：日中は介護施設等を利用されている利用者さん達の旅行です。海の幸と温泉が楽しめる宿を検索中です。



ありがとうございました

今月の掲載分は、

令和五年五月二十一日

令和五年六月二十日です



【寄付・寄贈】

- ・大島 照雄 様
- ・田代 千恵子 様
- ・藤野 幸子 様
- ・前原 透 様
- ・光永 順子 様
- ・守田 勝之 様
- ・行弘 美希 様
- ・渡辺 昭子 様
- ・すまいる 様
- ・まんしん未来 様
- ・ここりす 様
- ・四羽協同組合 様
- ・お菓子の香梅 様
- ・つくしの里互助会 様

【ボランティア】

- ・村里 和洋 様
- ・トキコロ 様
- ・カモメ 様
- ・木本 ふじ子 様



誠にありがとうございました。
利用者さんの為に使用させて頂きます。

※お詫びとおことわり

里だより担当では、毎月十分注意して記事の記載、確認をしておりますが、誤字脱字等がございましたら何卒ご容赦していただきたく存じます。

施設PR委員会 今月の1枚!



美味しいお茶を点てました!!

～生介⑤班調理実習～



編集後記

五月二十六日に第一回理事会、六月十日に令和五年度定時評議員会と第二回理事会が開催され、令和四年度の事業報告と決算報告が承認されました。また、役員の改選では、全員の再任が承認されましたことを報告させていただきます。無事に令和四年度が完了したようでホッとしています。ですが、法人の情報公開に関する届け出が残っていますので、きちんと手続きしたいと思います。

～いきいきグループ 朗読ボランティア～



法人単位貸借対照表

第三号第一様式（第二十七条第四項関係）

令和5年3月31日現在

（単位：円）

	資産の部			負債の部			
	当年渡末	前年度末	増減	当年渡末	前年度末	増減	
流動資産	293,971,244	284,664,628	29,306,616	流動負債	52,184,329	38,682,548	13,501,781
現金預金	226,441,733	203,005,782	23,435,951	事業未払金	26,017,318	12,592,199	13,425,129
事業未収金	66,897,261	61,069,950	5,827,311	預り金	40,507	39,985	522
立替金			0	職員預り金	5,064,504	6,971,374	-1,906,870
前払費用	632,250	588,936	43,354	賞与引当金	20,452,000	18,529,000	1,923,000
				役員退職慰労引当金	610,000	550,000	60,000
固定資産	884,204,945	871,684,341	-7,479,396	固定負債	20,146,790	22,779,981	-2,633,191
基本財産	447,154,538	461,094,756	-13,930,218	退職給付引当金	20,146,790	22,779,981	-2,633,191
土地	73,133,245	73,133,245	0	負債の部合計	72,331,119	61,462,529	10,868,590
建物	374,021,293	387,951,511	-13,930,218				
その他の固定資産	417,050,407	410,599,585	6,450,822	純資産の部	212,872,499	212,872,499	0
建物	1,327,099	1,597,057	-269,958	基本金	100,544,952	105,542,265	-4,997,313
構築物	23,079,045	26,320,965	-3,241,920	国庫補助金等特別積立金	357,313,832	342,313,832	15,000,000
機械及び装置	2,234,703	2,678,264	-443,561	その他の積立金	35,559,832	35,559,832	0
運搬用具	4,130,879	5,718,271	-1,587,392	移行時特別積立金	73,500,000	73,500,000	0
器具及び備品	8,538,598	8,812,218	-273,620	人件費積立金	68,700,000	68,700,000	0
権利	279,461	378,997	-99,536	修繕費積立金	16,200,000	16,200,000	0
ソフトウェア			0	備品等購入積立金	163,354,000	148,354,000	15,000,000
退職給付引当資産	20,146,790	22,779,981	-2,633,191	建設積立金	415,113,787	414,157,844	955,943
移行時特別積立資産	35,559,832	35,559,832	0	次期繰越活動増減差額	15,955,943	29,337,743	-13,381,800
人件費積立資産	73,500,000	73,500,000	0	(うち当期活動増減差額)			
修繕費積立資産	68,700,000	68,700,000	0				
備品等購入積立資産	16,200,000	16,200,000	0				
建設積立資産	163,354,000	148,354,000	15,000,000				
資産の部合計	1,158,176,189	1,136,348,969	21,827,220	負債及び純資産の部合計	1,158,176,189	1,136,348,969	21,827,220

法人単位資金収支計算書

（自）令和4年4月1日 （至）令和5年3月31日

（単位：円）

勘定科目		予算(A)	決算(B)	差異(A)-(B)	備考
事業活動による収支	収入				
	障害福祉サービス等事業収入	429,348,000	431,048,555	-1,700,555	
	経常経費寄附金収入	2,300,000	2,403,700	-103,700	
	受取利息配当金収入	8,000	8,786	-786	
	その他の収入	1,979,000	2,385,361	-406,361	
	事業活動収入計（1）	433,635,000	435,846,402	-2,211,402	
支出	人件費支出	304,224,000	299,795,637	4,428,363	
	事業費支出	57,668,000	53,753,512	3,914,488	
	事務費支出	49,745,000	48,116,385	1,628,615	
	その他の支出	470,000	420,219	49,781	
	事業活動支出計（2）	412,107,000	402,085,753	10,021,247	
事業活動資金収支差額（3）＝（1）－（2）	21,528,000	33,760,649	-12,232,649		
施設整備等による収支	収入				
	施設整備等補助金収入		0	0	
	固定資産売却収入		0	0	
	施設整備等収入計（4）	0	0	0	
	支出				
固定資産取得支出	3,649,000	3,647,930	1,070		
ファイナンス・リース債務の返済支出		0	0		
施設整備等支出計（5）	3,649,000	3,647,930	1,070		
施設整備等資金収支差額（6）＝（4）－（5）	-3,649,000	-3,647,930	-1,070		
その他の活動による収支	収入				
	積立資産取崩収入	5,100,000	5,103,111	-3,111	
	その他の活動収入計（7）	5,100,000	5,103,111	-3,111	
	支出				
	積立資産支出	17,480,000	17,427,995	52,005	
その他の活動支出計（8）	17,480,000	17,427,995	52,005		
その他の活動資金収支差額（9）＝（7）－（8）	-12,380,000	-12,324,884	-55,116		
予備費支出（10）	2,750,000		2,750,000		
当期資金収支差額合計（11）＝（3）＋（6）＋（9）－（10）	2,748,000	17,787,835	-15,038,835		
前期末支払資金残高（12）	245,061,080	245,061,080	0		
当期末支払資金残高（11）＋（12）	247,810,080	262,848,915	-15,038,835		

第二号第一様式（第二十三条第四項関係）
法人単位事業活動計算書

（自）令和4年4月1日 （至）令和5年3月31日

（単位：円）

勘定科目		当年度決算(A)	前年度決算(B)	増減(A)-(B)
サービス活動増減の部	収益			
	障害福祉サービス等事業収益	431,048,555	423,242,266	7,806,289
	経常経費寄附金収益	2,403,700	2,978,840	-575,140
	サービス活動収益計（1）	433,452,255	426,221,106	7,231,149
	費用			
	人件費	299,103,521	279,606,779	19,496,742
	事業費	53,753,512	50,847,677	2,905,835
	事務費	48,116,385	46,927,667	1,188,718
	減価償却費	23,494,133	24,953,259	-1,459,126
	国庫補助金等特別積立金取崩額	-4,997,313	-5,207,307	209,994
サービス活動費用計（2）	419,470,238	397,128,075	22,342,163	
サービス活動増減差額（3）=（1）-（2）	13,982,017	29,093,031	-15,111,014	
サービス活動外増減の部	収益			
	受取利息配当金収益	8,786	8,486	300
	その他のサービス活動外収益	2,385,361	617,906	1,767,455
	サービス活動外収益計（4）	2,394,147	626,392	1,767,755
	費用			
	その他のサービス活動外費用	420,219	435,398	-15,179
サービス活動外費用計（5）	420,219	435,398	-15,179	
サービス活動外増減差額（6）=（4）-（5）	1,973,928	190,994	1,782,934	
経常増減差額（7）=（3）+（6）	15,955,945	29,284,025	-13,328,080	
特別増減の部	収益			
	施設整備等補助金収益	0	0	0
	固定資産売却益	0	53,719	-53,719
	特別収益計（8）	0	53,719	-53,719
	費用			
	固定資産売却損・処分損	2	1	1
国庫補助金等特別積立金取崩額（除却等）	0	0	0	
国庫補助金等特別積立金積立額	0	0	0	
特別費用計（9）	2	1	1	
特別増減差額（10）=（8）-（9）	-2	53,718	-53,720	
当期活動増減差額（11）=（7）+（10）	15,955,943	29,337,743	-13,381,800	
繰越活動増減差額の部	前期繰越活動増減差額（12）	414,157,844	399,820,101	14,337,743
	当期末繰越活動増減差額（13）=（11）+（12）	430,113,787	429,157,844	955,943
	基本金取崩額（14）	0	0	0
	その他の積立金取崩額（15）	0	0	0
	その他の積立金積立額（16）	15,000,000	15,000,000	0
次期繰越活動増減差額（17）=（13）+（14）+（15）-（16）	415,113,787	414,157,844	955,943	